



オールドニュータウンのゴミ問題について

社会科学研究所 西川 祥子

キーワード

オールドニュータウン、ゴミ問題、高齢化、自治会

研究概要

日本では近年、言うまでもなく、少子高齢化が進んでいる。そんな中、オールドニュータウンは、都市部にありながら、さらにいち早く、高齢化を迎えている。そのため、この地区では、これまでのゴミ収集の在り方が揺らぎ始めている。本研究では、オールドニュータウンのある戸建て地区の自治会にアンケート調査を行った。結果、①ゴミ集積所を管理する自治会の維持が難しくなっている ②ゴミ出しができない人は現在は1人(0.9%) ③5年後には、ゴミが出せなくなるかもしれないと考えている人が27人(24.5%)に上る、ことがわかった。神戸市の環境局は、既に高齢者に向けたゴミ収集のサービスや、自治会の活性化を促すサービスを提供している。しかし、5年後くらいを目安に、その程度の部分対応では追いつかないくらい、一挙にこれまでのシステムが維持できなくなる可能性があると考えられる。そのため、今から次のゴミ収集システムに向けての議論が必要である。また、高齢化は現在も進行中であるため、できる範囲で見合った工夫を取り入れるべきである。

アピールポイント

明舞団地に教育・研究で関わって10年以上になる。これまでネットワークや知識を生かして、研究を進めている。オールドニュータウンという高齢化先進地区の事例は、他の地域にも、示唆を与えると考えている。

応用分野

戸建て地区を対象に研究を始めたが、集合住宅についても、研究する予定である。